

踏切の「こしょう」表示は 早急に改善すべきだ！

「J R 東海道線惣作踏切死亡事故」について業務委員会開催

4月13日、「J R 東海道線惣作踏切死亡事故に関する申し入れ」についての業務委員会を開催しました。

3月19日、J R 東海道線惣作踏切において踏切を渡ろうとした女性が特別快速電車にはねられ死亡するという痛ましい事故が発生しました。事故当時、この踏切は警報機が鳴って遮断機が下がっていましたが、警報機の支柱に取り付けられた表示機に『こしょう』という文字が点灯していたため、踏切が壊れていると考え遮断機を持ち上げて踏切内に入り事故にあったというものです。

私たちは「こしょう」表示の改善や、マニュアルの改善についても検討するべきであることを主張しました。しかし会社は、将来的には改善するが現時点では具体的な対策について明らかにしませんでした。

闘申94号に対する会社回答

1. 事故の状況、原因を明らかにすること。

【回答】

平成18年3月19日、日曜日17時27分頃、5123F列車（豊橋駅発大垣駅行き特別快速313系6両編成）が愛知御津を18分遅通し惰行運転中惣作踏切手前で進行左側より自転車を押して踏み切りを横断しようとしている人（69才）を発見し直ちに非常停止手配を取ったがこれと衝撃したものである。当日は強風のため列車ダイヤに乱れが生じ列車が連続的に走行し当該踏切は15分以上遮断した状態となり「こしょう」表示を出していた。

2. J R 東日本、J R 西日本は「こしょう」表示を全廃する方針であるにも関わらず、なぜ全廃しないのか明らかにすること。

【回答】

救急車や消防自動車等の緊急車両は「こしょう」表示があれば別の踏切等へ迂回することが可能となる。「こしょう」表示を撤去すると正常動作中の踏切でも長時間警報等が発生すると不具合と思われることになり踏切を渡る者を発生させ結果として事

故となるおそれがあるため、踏切通行者に何らかの情報を与える必要がある。このような理由から踏切に何らかの異常が発生している旨の表示は必要と考えている。

3. 同種事故を防止するために具体的な対策を明らかにすること。

【回答】

踏切事故は大事故に繋がるため遮断中の踏切には絶対に入らないようポスターの掲出を行ったり、キャンペーン等を利用してリーフレットの配布、駅、車内での踏切事故防止放送等の啓発活動を行っている。当社管内の踏切遮断時間が長い等のボトルネック踏切41箇所については「こしょう」表示となっても渡らないよう踏切通行者に対して注意を喚起する看板を設置済みである（1月25日）。「こしょう」を表示する踏切1790箇所については「こしょう」表示中でも渡らないでください。という標示を掲出済みである（4月4日完了）。

以下、主なやりとりです

係員を早急に現地に派遣できる体制をとること

組合：「こしょう」表示の条件は15分以上の遮断状態が続くと表示するのか。

会社：15分以上遮断で「こしょう」を表示する。

組合：事故当時、踏切には係員がいたのか。

会社：確認していないのでわからない。

組合：事故当時の時系列はどうなっているのか。

会社：今持ち合わせていないのでわからない。

組合：通常、「こしょう」表示があればどのように対処するのか。

会社：「こしょう」表示が発生したら指令が把握し、係員（施設関係）に連絡し現地に行かせることになっている。

組合：今回は駅員の方が近かったのではないのか。

会社：駅員はダイヤの乱れの対応がある。

組合：係員がどれだけ早く行けるのかが問われている。今後の安全確保のためには検証すべきだ。

「こしょう」表示は早急に改善すべきだ

組合：「こしょう」表示があったから渡ったといえる。人間の心理として「こしょう」表示があれば渡りたくなる、「こしょう」表示は撤去すべきだ。

会社：回答の通り。将来的には考えるが今は具体的にない。

組合：国交省からの指導内容はどのようなものか。

会社：「こしょう」表示を改良しなさい、それまでの間は緊急措置をしなさいというものである。

組合：昨年他社でも同じように踏切死亡事故があった。このことをどう教訓としたのかが問われる。もっと身近なものとして考え対策を講ずるべきだ。また、一刻も早く係員を現地に行かせ、対応させるべきだ。

会社：係員はいつでもどこにいるか分からない状況がある。踏切は遮断していたら立ち入

らないことが原則である。

組合：指令は「こしょう」表示がある場合、乗務員には伝えないのか。

会社：伝えていない。

組合：指令は状況を把握しているのだから乗務員にその旨を伝え、通過時に注意を即すなど必要ではないか。

会社：ルール（マニュアル）どおりにやった。

組合：現在のマニュアルを必ずしも良しとせず、見直しも検討すべきだ。

組合：御殿場線において、遮断機が下がりきる前に列車が通過するという踏切もある。把握しているか。

会社：知らない。

組合：早急に調査し対処すべきだ。

組合：再度確認するが、国交省の指導に基づいて具体的にいつまでに「こしょう」表示を改善するのか。

会社：将来的にとしか言えない。

組合：どのような表示とする考えなのか。

会社：現時点においては分からない。

組合：国交省の指導もある。二度といたましい事故を繰り返さないためにも、具体的に期日、表示内容について、改善すべきと主張する。

国交省の指導にもかかわらず、「こしょう」表示を早急に改善しようとしないう、安全を軽視する会社の姿勢を許すことは出来ません。

私たちは、二度とこのような事故を起こさないための対策が急務であると考えます。今後も会社の対策についてしっかりチェック機能を果たしていきます。